

赤木完爾教授略歴

学歴

- 一九七二年三月 修道高等学校卒業
- 一九七七年三月 慶應義塾大学法学部政治学科 卒業
- 一九八〇年三月 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程修了
- 一九八九年七月 法学博士（慶應義塾大学）

学士号・学位

- 法学士（慶應義塾大学） 一九七七年三月授与
- 法学修士（慶應義塾大学） 一九七九年三月授与
- 修士論文名「中国問題をめぐる英米協調の起源 一九三二年―一九三五年」
- 法学博士（慶應義塾大学） 一九八九年七月授与
- 博士論文名「ヴェトナム戦争の起源―アイゼンハワー政権と第一次インドシナ戦争」

所属学会及び入会年

- 日本国際政治学会
防衛学会（現・国際安全保障学会）
軍事史学会
戦略研究学会
- 一九七七年入会（評議員 二〇一〇年～現在）
一九八〇年入会（理事 一九七七年～ 副会長 二〇一八年～現在）
一九八〇年入会（理事 一九九四年～二〇〇六年）
二〇〇八年入会（理事 二〇〇九年～ 副会長 二〇一七年～現在）

職歴

- 一九八〇年四月 防衛庁防衛研修所戦史部助手
一九八七年四月 防衛研究所戦史部所員
一九八七年～一九八八年 米国ジョーンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院（SAIS）エドウィン・O・ライシャワー・センター訪問研究員
一九九〇年四月 慶應義塾大学法学部専任講師
一九九一年一月～一九九三年九月 大学学生会委員（三田支部）
一九九二年四月 慶應義塾大学法学部助教授
一九九四年～一九九六年 米国イェール大学国際安全保障プログラム（ISS）訪問研究員
一九九七年四月 慶應義塾大学法学部教授
一九九八年四月 慶應義塾大学大学院法学研究科委員
二〇〇五年八月～二〇〇六年八月 米国ハーヴァード大学燕京研究所訪問研究員
二〇〇八年六月～二〇一九年三月 三田評論編集委員

二〇〇九年一〇月 三田インフォメーションテクノロジーセンター所長
二〇一一年一〇月 インフォメーションテクノロジーセンター所長
二〇一五年四月～二〇一九年三月 慶應義塾図書館長・メディアセンター所長・三田メディアセンター所長
二〇一六年一月～二〇一八年一〇月 第三期（後期）教職員評議員

学外兼務等

一九九〇年～現在 防衛省防衛研究所一般課程 講師
一九九七年～現在 航空自衛隊幹部学校 幹部高級課程 講師
二〇〇〇年～二〇〇五年 大学評価・学位授与機構 委員
二〇〇二年～二〇一二年 国立公文書館アジア歴史資料センター・データ検証委員会 委員長
二〇〇二年四月～現在 昭和館運営専門委員会 委員
二〇〇三年七月～二〇〇五年六月 総務省大臣官房政策評価広報課 政策評価委員会 委員〔旧独立行政法人平和祈念事業特別基金〕
二〇〇八年～現在 防衛省統合幕僚学校 統合幹部高級課程 講師
二〇〇八年四月～二〇一四年三月 国立公文書館アジア歴史資料センター諮問委員会 委員
二〇一一年五月～二〇一五年五月 一般社団法人 大学ICT推進協議会 理事
二〇一二年四月～二〇一八年三月 社団法人 日本私立大学連盟 広報・情報部門会議（大学時報）委員
二〇一三年六月～二〇一五年五月 公益社団法人 私立大学情報教育協会 理事
二〇一四年五月～現在 国立公文書館アジア歴史資料センター諮問委員会 委員長
二〇一七年四月～二〇一九年二月 文部科学省 科学技術・学術審議会学術分科会 第九期学術情報委員会委員

受賞

- 一九八三年四月 軍事史学会阿南研究奨励賞
- 一九九二年六月 最優秀出版奨励賞(防衛学会〔現・国際安全保障学会〕加藤陽三賞)
- 一九九三年二月 財団法人櫻田会政治研究櫻田会奨励賞
- 一九九七年一〇月 慶應義塾賞
- 二〇一一年一月 防衛大臣表彰

赤木完爾教授主要業績

I. 編・著書

- 小此木政夫・赤木完爾共編『冷戦期の国際政治』慶應通信、一九八七年。
赤木完爾『ヴェトナム戦争の起源——アイゼンハワー政権と第一次インドシナ戦争』慶應通信、一九九一年。
赤木完爾『第二次世界大戦の政治と戦略』慶應義塾大学出版会、一九九七年。
添谷芳秀・赤木完爾共編著『冷戦後の国際政治——実証・政策・理論』慶應義塾大学出版会、一九九八年。
赤木完爾編著『朝鮮戦争——休戦五〇周年の検証・半島の内と外から』慶應義塾大学出版会、二〇〇三年。
久保文明・赤木完爾共編著『アメリカと東アジア』慶應義塾大学出版会、二〇〇四年。
赤木完爾・今野茂充共編著『戦略史としてのアジア冷戦』慶應義塾大学出版会、二〇一三年。

II. 学術論文

- 「朝鮮戦争——日本による独占支配崩壊後の米・中・ソ角逐抗争」『アジア』第一六卷第二号（一九八一年二月）一一一—一二二ページ（神谷不二との共著）。
「中国幣制改革をめぐる英米提携」『法学研究』第五五卷第三号（一九八二年三月）三二二—三三六ページ。

- 「朝鮮半島分割経緯の再考」『軍事史学』第一七卷第四号（一九八二年三月）四一—五〇ページ。
- 「イギリス海軍の太平洋戦域参加問題（一九四二年—一九四五年）——連合戦争の断面」『軍事史学』第一九卷第三号（一九八三年二月）一五—三七ページ。
- 「仏印武力処理をめぐる外交と軍事——『自存自衛』と『大東亜解放』の間」『法学研究』第五七卷第九号（一九八四年九月）二八—六二ページ。
- 「アメリカ合衆国のインドシナ政策——一九四七年—一九五〇年」『新防衛論集』第一四卷第二号（一九八六年一月）七五—一〇〇ページ。
- 「第二次世界大戦におけるイギリスの戦略——その形成期の基本問題 一九三九—一九四一年」『軍事史学』第二二卷第三号（一九八六年二月）二—一三ページ。
- 「イギリス海軍の太平洋戦域参加問題（太平洋戦史研究部会報告〈五〉）太平洋戦史研究部会第五回セッションペーパー」『太平洋学会学会誌』第三六号（一九八七年一〇月）四七—六五ページ。
- 「ソ連の朝鮮戦争に関する新見解」『軍事史学』第二六卷第三号（一九九〇年二月）六七—七二ページ。
- 「連合国戦時外交におけるインドシナ——一九四二—一九四五年」『法学研究』第六五卷第二号（一九九二年二月）一〇三—一三〇ページ。
- “Anglo-Japanese Relations and Japan's Policy and Strategy against Britain, 1936-1941.” *Keio Journal of Politics* No. 7 (1994): 69-91.
- 「戦後日本の東南アジア回帰とアメリカの冷戦政策」『法学研究』第六八卷第一号（一九九五年一月）一二五—一四六ページ。
- 「東アジアの勢力均衡——戦略的相互作用の観点から」小島朋之・小此木政夫編著『東アジア 危機の構図』東洋経済新報社、一九九七年所収。
- 「冷戦史再訪」『新防衛論集』第二五卷一号（一九九七年六月）一—六ページ。

- 「安全保障政策と情報」『法学研究』第七三卷第一号（二〇〇〇年一月）一三七—一六六ページ。
- 「冷戦後の国際関係理論（一）」『法学研究』第七三卷第一号（二〇〇〇年一月）一三四—一三三ページ（今野茂充との共著）。
- 「冷戦後の国際関係理論（二・完）」『法学研究』第七三卷第一号（二〇〇〇年一月）二五一—二五二ページ（今野茂充との共著）。
- 「核兵器と朝鮮戦争——予防戦争と自己抑制の間」『法学研究』第七五卷第一号（二〇〇一年一月）一三七—一七六ページ。
- 「朝鮮戦争の衝撃」『軍事史学』第三六卷三・四号（二〇〇一年三月）三三—四七ページ。
- 「日本の戦争計画におけるイギリス要因——『対英米蘭蔣戦争終末促進に関する腹案』の消滅まで」『第一回戦争史研究国際フォーラム報告書』（二〇〇三年三月）八九—九八ページ。
- “Leadership in Japan’s Planning for War against Britain.” In *British and Japanese Military Leadership in the Far Eastern War, 1941-1945*, edited by Brian Bond and Kyochi Tachikawa. 53-63. London: Frank Cass, 2004.
- 「戦略史研究の集積に向けて」『国際安全保障』第三三卷第二号（二〇〇五年九月）一—三三ページ。
- 「米英側からみた日米交渉とアジア歴の可能」『アーカイブズ』第二七号（二〇〇七年三月）三七—四一ページ。
- 「朝鮮戦争と核兵器——トルーマンとアイゼンハワー」慶應義塾大学法学部編『慶應の政治学——国際政治』慶應義塾大学出版会、二〇〇八年所収。
- 「冷戦と戦略の変容——二〇世紀後半の戦略思考と戦略環境」『年報戦略研究』第六号（二〇〇九年三月）五五—六四ページ。
- 「第二次世界大戦におけるアメリカの政軍関係」『法学研究』第八三卷第三号（二〇一〇年三月）四一—六三ページ。
- 「朝鮮戦争史研究の一〇年」『軍事史学』第四六卷第一号（二〇一〇年六月）四〇—五四ページ。
- 「イギリス太平洋艦隊始末 一九四四—一九四五年——連合戦争の政治・戦略・作戦」『法学研究』第八三卷第一二号

(二〇一〇年二月) 五七—八二ページ。

「冷戦を再考する」『法学研究』第八四卷第一号(二〇一一年一月) 一—二八ページ。

“The Korean War and Japan.” *Seoul Journal of Korean Studies* Vol. 24, No. 1 (June 2011): 175-184.

「朝鮮戦争——日本への衝撃と余波」防衛省防衛研究所編『戦史特集 朝鮮戦争と日本』(二〇一三年九月) 三—一〇ページ。

「爆撃と封鎖——一九四五年夏の軍事的現実」『昭和のくらし研究』第一四号(二〇一五年二月) 七—一四ページ。

「イギリスのインド洋戦略と日米戦争——一九四一—一九四二年」『法学研究』第八九卷第二号(二〇一六年二月) 四—一六二ページ。

「冷戦と日本——朝鮮戦争の時期を中心として」『軍事史学』第五一卷第四号(二〇一六年三月) 九八—一〇七ページ。

「終戦史研究の現在——《原爆投下》・《ソ連参戦》論争とその後」『法学研究』第八九卷第九号(二〇一六年九月) 一—四三三ページ(滝田遼介との共著)。

「安全保障理論の新たな地平」『国際安全保障』第四四卷第四号(二〇一七年三月) 一—七ページ。

「朝鮮戦争をめぐる中朝関係の歴史的経緯と現代への含意」『世界平和研究』第四四卷第一号(二〇一八年冬季) 五四—六三三ページ。

Ⅲ. 翻訳

Gaddis, John Lewis. *We Now Know: Rethinking Cold War History*. New York: Oxford University Press, 1997. =

ジョン・ルイス・ギャディス(赤木完爾・齊藤祐介訳)『歴史としての冷戦——力と平和の追求』慶應義塾大学出版会、二〇〇四年。

Gaddis, John Lewis. *Surprise, Security, and the American Experience*. Cambridge, MA: Harvard University Press,

2004. Ⅱ ジョン・ルイス・ギャデイス (赤木完爾訳) 『アメリカ外交の大戦略——先制・単独行動・覇権』慶應義塾大学出版会、二〇〇六年。

Frank, Richard B. "Ketsu-Go: Japanese Political and Military Strategy in 1945." (unpublished article) Ⅱ リチャード・B・フランク (赤木完爾訳) 『決号』——一九四五年における日本の政治戦略・軍事戦略』『法学研究』第 八九巻第八号 (二〇一六年八月) 四九—九八ページ。

Mulligan, William. *The Origins of the First World War*. 2nd ed. Cambridge: Cambridge University Press, 2017. = ウイリアム・マリガン (赤木完爾・今野茂充訳) 『第一次世界大戦への道——破局は避けられなかったのか』慶應義塾大学出版会、二〇一七年。

Ⅳ. 書評・解説等

〔書評〕マイケル・ハワード著 (奥村房夫・奥村大作訳) 『ヨーロッパ史と戦争』『軍事史学』第一七巻第二号 (一九八一年九月) 八〇—八三ページ。

〔戦争目的〕と大東亜戦争』『陸戦研究』第三一巻第三五五号 (一九八三年四月) 八一—八四ページ。

〔書評論文〕『オーヴァーロード』作戦四〇周年——最近の研究から』『軍事史学』第二〇巻第三号 (一九八四年二月) 二二—二九ページ。

〔書評〕谷川榮彦『ベトナム戦争の起源』『アジア研究』第三三巻第一号 (一九八五年四月) 一〇五—一〇六ページ。

〔書評〕平松茂雄『中国と朝鮮戦争』『軍事史学』第二五巻第一号 (一九八九年六月) 八三—八七ページ。

〔書評〕『等身大の米内に接近する』高田万亀子『静かなる盾——米内光政』『文化会議』第二五八号 (一九九〇年) 三二—三四ページ。

〔書評〕神谷不二『朝鮮半島で起きたこと 起きること』『文化会議』第二七三号 (一九九二年) 二二—二三ページ。

- 〔「書評」 *The Path to Vietnam: Origins of the American Commitment to Southeast Asia*/ Andrew J. Rotter (1987) 』
 『アジア経済』第三四卷第二号 (一九九三年二月) 八二—八五ページ。〕
- 〔「書評」 *Troubled Days of Peace: Mombatten and South East Asia Command, 1945-46*/ Peter Dennis (1987) 』
 『軍事史学』第二八卷第四号 (一九九三年三月) 九四—九八ページ。〕
- 〔「書評」 *Old Friends, New Enemies: The Royal Navy and the Imperial Japanese Navy, Volume 2, Pacific War, 1942-1945*/ Arthur J. Marder, Mark Jacobsen and John Horsfield (1990) 』『軍事史学』第二九卷第三号 (一九九三年一月) 六〇—六四ページ。〕
- 〔「書評」波多野澄雄『太平洋戦争とアジア外交』』『軍事史学』第三三卷第二・三号 (一九九七年二月) 四一八—四二二ページ。〕
- 〔「文書館遍歴」』『三田評論』第九九七号 (一九九七年二月) 三三三ページ。〕
- 〔「書評」佐々木雄太『イギリス帝国とスエズ戦争——植民地主義・ナショナリズム・冷戦』』『国際法外交雑誌』第九六卷第六号 (一九九八年二月) 九一七—九二〇ページ。〕
- 〔「比較史と外国戦史」』『戦史研究年報』第一号 (一九九八年) 七—八ページ。〕
- 〔「政治学科開設百年にあたって」』『三色旗』第六〇九号 (一九九八年二月) 二—五ページ。〕
- 〔「軍事史関係史料館探訪二」』アメリカ陸軍軍事史研究所』『軍事史学』第三四卷第四号 (一九九九年三月) 九二—九四ページ。〕
- 〔「大戦争はなくなるか」』『三色旗』第六一六号 (一九九九年七月) 二—六ページ。〕
- 〔「朝鮮戦争関係文献目録」』『軍事史学』第三六卷一号 (二〇〇〇年六月) 一〇二—一〇七ページ。〕
- 〔「三〇年後の『決定の本質』』『三色旗』第六四一号 (二〇〇二年八月) 二—六ページ。〕
- 〔「座談会」』激動する国際社会と日本経済のゆくえ』『三田評論』第一〇四一号 (二〇〇一年二月) 一〇—二四ページ。〕

- 「書評」戦略研究学会編・石津朋之編著『戦略論体系（四）リデルハート』『軍事史学』第四〇巻第一号（二〇〇四年八月）六四―六八ページ。
- 「戦史研究座談会 戦史部における戦史研究のあり方」『戦史研究年報』第二二号（二〇〇九年三月）六四―九四ページ。
- 「政軍関係（神谷不二先生追悼記事）」『法学研究』第八二巻第一〇号（二〇〇九年一月）一三〇―一三二ページ。
- 「書評」森聡『ヴェトナム戦争と同盟外交——英仏の外交とアメリカの選択 一九六四―一九六八年』『国際安全保障』第三八巻第二号（二〇一〇年九月）一四―一八ページ。
- 「座談会 東アジアのなかの『日米安保』」『三田評論』第一一三八号（二〇一〇年一月）一〇―二七ページ。
- 「三人閑談 ライカに恋して」『三田評論』第一一七五号（二〇一四年二月）七〇―八一ページ。
- 「リヴァプールの敷き瓦」『三田評論』第一一八八号（二〇一五年四月）九三ページ。
- 「メディアアセンタ―機能の未来」『Mediane』第二二号（二〇一五年）一ページ。
- 「朝鮮戦争関係文献解題——中国語文献（二〇〇五年～二〇一五年）」『法学研究』第八八巻第九号（二〇一五年九月）四九―七三ページ（安田淳・服部隆行・李錫敏との共著）。
- 「座談会 大学図書館はこれからどうなるのか？」『大学時報』第三六七号（二〇一六年三月）一六―三一ページ。
- 「東京新聞」『新聞を読んで』
- 「同盟政策逆転を印象——米大統領の訪中結果」一九九八年七月二二日
- 「秋野氏の遭難から国際貢献を考えた」一九九八年八月九日
- 「日本の安保政策問う北朝鮮のミサイル」一九九八年九月六日
- 「遅れた金融再生法案——日本に必要な果敢さ」一九九八年一〇月四日
- 「大学改革で問題提起——示唆に富むが不満も」一九九八年一月一日
- 「多国間の経済連携——アジアでは前途多難」一九九八年一月二九日

- 「多角的だった視点——イラク空爆の報道」一九九八年一月二七日
「注目の『自自連立』——政治はどう変わる」一九九九年一月二四日
「局面の打開なるか——対北朝鮮宥和政策」一九九九年二月二一日
「情報化で政治変化——まだ役割重い新聞」一九九九年三月二一日
「西側の危険な賭け——深刻なユーゴ空爆」一九九九年四月一八日
「コンボに冷酷な現実——国連解決も期待薄」一九九九年五月一六日
「他国の『盗聴』検証を——日本の国家戦略必要」一九九九年六月一三日